

# 課題の実施内容

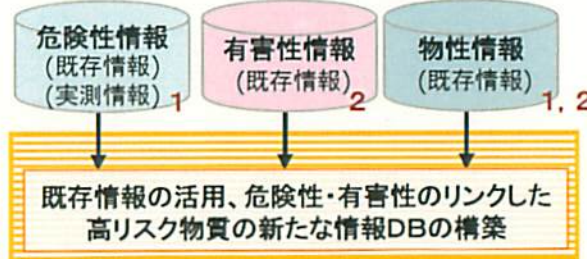
- 課題分類 「化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究」
- 提案課題名 「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」
- 研究代表者名 「三宅 淳巳」
- 責任機関名 「国立大学法人 横浜国立大学」

## 事業実現イメージ

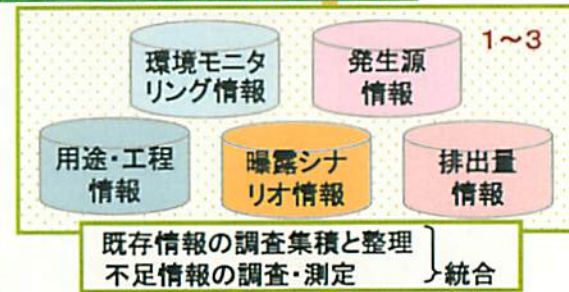


## 化学物質トータルリスクの評価に資する情報プラットフォームの構築

### ①化学物質ハザード・物性情報の収集・整理



### ②化学物質曝露情報の統合




### ③リスク評価情報ツールの開発 1~3

- ライフサイクルリスク評価手法の検討 3
- 既存の各種リスク評価ツールの整理・改良 1~3

### ④活用事例情報による提示 リスク評価の代表的事例

- 高懸念物質: トルエン、臭素系難燃剤... 3

## 化学物質トータルリスク情報プラットフォームによる情報発信の波及効果

- ・情報発信拠点として、 横浜国立大学 大学院 環境情報研究院および 安心・安全の科学研究教育センターでの管理、インターネットからの情報発信

(情報発信の波及効果イメージ)

- リスク評価を行う事業者の拡大  
→ リスクベースの化学物質管理の促進と技術の高度化
- 化学物質リスク評価範囲の拡大  
→ 特定の発生源でのリスク評価から、ライフサイクル全体に亘るトータルリスクの評価へ

化学物質のトータルリスクが総合的に低減、事業活動の円滑化、市民の安心感醸成

### 【サブテーマ】

※左図の数字1~3は、サブテーマを表します。

- サブテーマ1: 事故時などのフィジカルリスク情報の整備とその効率的活用
- サブテーマ2: 短期・長期健康リスク情報の整理とその効率的活用
- サブテーマ3: 高懸念物質のライフサイクルリスク評価に必要な情報整備と考え方の構築

## ミッションステートメント

- 課題分類 「化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究」
- 提案課題名 「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」
- 研究代表者名 「三宅 淳巳」
- 責任機関名 「国立大学法人 横浜国立大学」

### ミッションステートメント

本研究では、下の3つの具体的な目標の達成を目指す。

- ①高フィジカルリスク/高環境リスク情報がリンクした化学物質のトータルリスクを考えるための基盤情報となる情報プラットフォーム（環境リスクに関しては、既存DBの情報を有効活用）を構築する。また、事業者が体系的かつ効率的に化学物質のフィジカルリスク/環境リスクを把握・評価するためのリスクアセスメントツールを収集・整理、改良・開発し、プラットフォームに搭載する。
- ②フィジカルリスクおよび短期・長期毒性まで考慮した、従来の研究では考慮されていないミッシングリンクを繋げる新たな化学物質のライフサイクルリスクの評価手法を、代表的な複数の事例とともに提案する。
- ③これらの研究成果の内容を精査し、事業者らが有効活用しやすい形でインターネットから情報発信する。

### 年次計画

ミッションステートメントの達成に向けて各年次における目標について、記述した。

サブテーマ1：事故時などのフィジカルリスク情報の整備とその効率的活用

サブテーマ2：短期・長期健康リスク情報の整理とその効率的活用

サブテーマ3：高懸念物質のライフサイクルリスク評価に必要な情報整備と考え方の構築

#### ○研究開始後1年目の目標 【カッコ内はサブテーマ番号】

- ・各サブテーマにおける基本情報の収集・整理、データベース設計（1～3）  
（データベースの設計と情報収集・入力、既存のリスクアセスメントツールの調査・収集・整理）
- ・ライフサイクルを通じた曝露量推定方法とリスク評価手法の調査（3）
- ・全体の連携体制および各サブテーマにおける研究推進体制の整備（1～3）  
（研究運営委員会設置、参画研究員の採用、研究協力者との連携体制の確認など）
- ・各サブテーマにおける詳細な研究達成目標の明確化（1～3）

#### ○研究開始後2年目の目標

- ・各サブテーマにおける基本情報の収集・整理（1～3）
- ・高毒性ハザード物質/高フィジカルハザード物質情報データベース構築（1～2）
- ・リスクアセスメントツールの評価・改良・開発（1～3）
- ・ライフサイクルを通じた曝露量推定方法の検討（2～3）
- ・ライフサイクルリスク評価手法の検討と高懸念物質の評価事例の作成（3）
- ・各サブテーマにおける詳細な研究達成目標の確認と修正（1～3）  
（自己評価と研究運営委員会による確認、修正）

#### ○研究開始後3年目の目標

- ・各サブテーマにおける基本情報の収集・整理（1～3）
- ・高フィジカルハザード物質/高毒性ハザード物質情報データベースの整理・改善（1～2）
- ・リスクアセスメントツールの適用性確認と改善（1～3）
- ・ライフサイクルリスク評価手法の検討と評価事例の作成（3）
- ・各サブテーマにおける詳細な研究達成目標の確認と修正、とりまとめ  
（自己評価と研究運営委員会による確認、検証、修正）
- ・申請研究全体の総括（研究代表者）